

教育のICT化やコロナ禍における学校の現状に関するアンケート調査【2021年2月実施】

2021/2/26

<調査の概要>

- 調査対象 全国の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員
- 調査方法 全国の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校のうち、学校段階・地域バランス等を踏まえて3,000校を抽出し、アンケート用紙を郵送、またはメールにて送信。回収はFAXまたはメール。
- 調査期間 2021年1月末～2月末
- 回答者数 254名(回収率約8.5%)

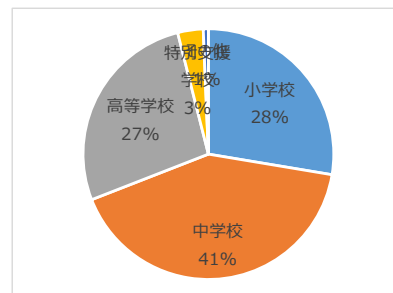
Q1 回答者が勤務されている学校、回答者自身について教えてください。

A. 学校区分

		回答数	割合
1	小学校	71	28%
2	中学校	105	41%
3	高等学校	68	27%
4	特別支援学校	8	3%
5	その他	2	1%
o	無回答	0	0%
	合計	254	100%

その他

- ・ 義務教育学校

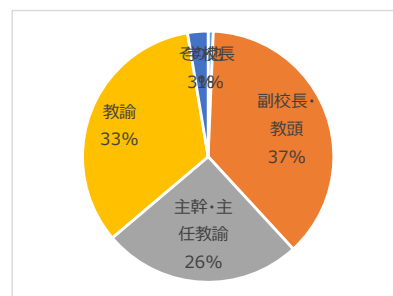


B. ご回答者の職位

		回答数	割合
1	学校長	2	1%
2	副校長・教頭	95	38%
3	主幹・主任教諭	65	26%
4	教諭	85	34%
5	その他	7	3%
o	無回答	0	0%
	合計	254	100%

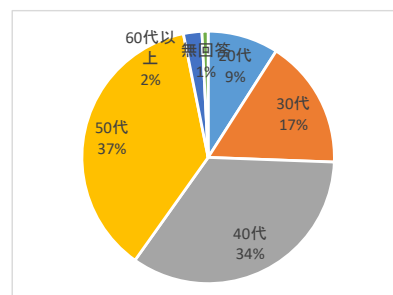
その他

- ・ 教務主任
- ・ 事務職員



C. ご回答者の年代

		回答数	割合
1	20代	23	9%
2	30代	42	17%
3	40代	87	34%
4	50代	94	37%
5	60代以上	6	2%
o	無回答	2	1%
	合計	254	100%



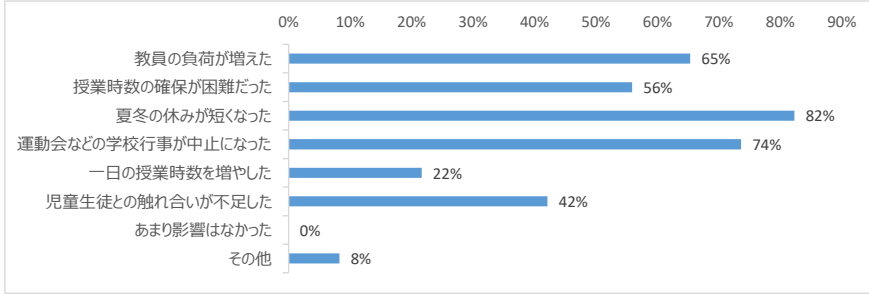
※以下の設問にお答えください。（すべて複数回答可）

Q2 昨年は新型コロナウイルス感染拡大により休校の時期があり、その後も感染防止対策に追われ大変なご苦労があったと思います。具体的にどのような影響があったでしょうか。

	回答数	割合
1 教員の負担が増えた	166	65%
2 授業時数の確保が困難だった	142	56%
3 夏冬の休みが短くなった	209	82%
4 運動会などの学校行事が中止になった	187	74%
5 一日の授業時数を増やした	55	22%
6 児童生徒との触れ合いが不足した	107	42%
7 あまり影響はなかった	0	0%
8 その他	21	8%
o 無回答	0	0%

(校種別)

小学校	中学校	高等学校	特別支援	その他
63%	67%	71%	38%	0%
49%	55%	62%	63%	100%
80%	85%	78%	100%	100%
61%	74%	84%	88%	100%
17%	22%	29%	0%	0%
46%	33%	44%	88%	100%
0%	0%	0%	0%	0%
11%	8%	4%	25%	0%
0%	0%	0%	0%	0%



その他

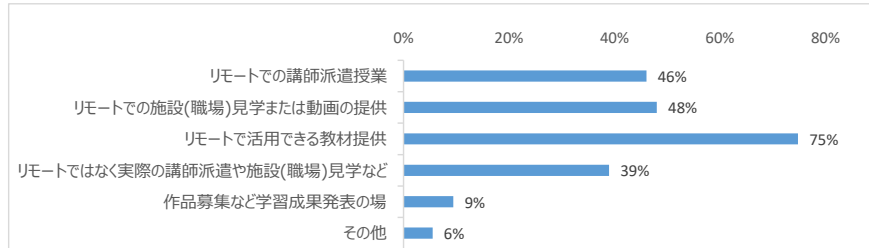
- ・ 大きな行事は何とか実施できたが、集会や取り組みで制限があった。
- ・ ICTに詳しい教員に負担が集中した
- ・ 学校行事は行うことができたが、縮小や変更を余儀なくされた。
- ・ 感染症対策の時間の増加。対策のための備品購入予算捻出。
- ・ 行事の延期（年度内）があった
- ・ 行事の精選・短縮
- ・ 校外学習、宿泊行事等は全て中止
- ・ 参観、出前授業ができなかった
- ・ 参観日が例年よりも少なくなった。
- ・ 消毒や検温カードの管理など仕事量が増えた
- ・ 土曜授業の実施

Q3 コロナ禍による困難を抱えた学校教育の中で、企業団体が支援させていただくとしたらどのようなことを希望されますか？

	回答数	割合
1 リモートでの講師派遣授業	117	46%
2 リモートでの施設(職場)見学または動画の提供	122	48%
3 リモートで活用できる教材提供	190	75%
4 リモートではなく実際の講師派遣や施設(職場)見学など	99	39%
5 作品募集など学習成果発表の場	24	9%
6 その他	14	6%
o 無回答	4	2%

(校種別)

小学校	中学校	高等学校	特別支援	その他
55%	40%	46%	38%	100%
52%	41%	51%	63%	100%
75%	70%	84%	63%	100%
42%	35%	40%	63%	0%
3%	12%	10%	25%	0%
7%	2%	10%	0%	0%
3%	2%	0%	0%	0%

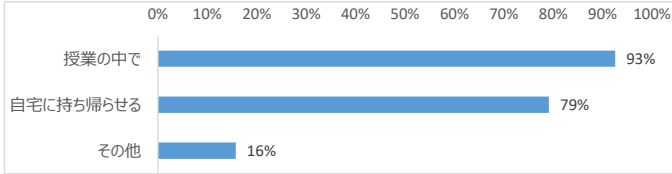


その他

- ・ ICT環境整備およびICT機器の取扱い説明（主に生徒向け）
- ・ ICT支援の人員派遣
- ・ 機器の貸し出し、寄贈
- ・ 教員向けの「リモート」講習
- ・ ケーブル、マウス、携行用クッションバッグ等、周辺グッズの配
- ・ リモートで授業配信する際のノウハウのレクチャー

- Q4 文部科学省が推進するGIGAスクール構想の中で、1人1台端末の普及が始まっています。先生ご自身のお考えをお聞かせください。
1人1台端末を具体的にどのように活用できるとお考えですか？

		回答数	割合
1	授業の中で	235	93%
2	自宅に持ち帰らせる	201	79%
3	その他	40	16%
0	無回答	3	1%



(校種別)

小学校	中学校	高等学校	特別支援	その他
96%	92%	88%	100%	100%
87%	83%	69%	63%	0%
18%	16%	15%	0%	0%
0%	0%	4%	0%	0%

1. 授業の中で

小学校

- ・1人ひとりにあった進度を設定し学習を個々に進めていく。
- ・45分(1コマ)の中の一部の時間を使って、授業で使用できるかと考えます。
- ・タブレットを活用して意見交換が容易になり、児童が考える力を伸ばす学習ができる。
- ・ノート代わりに使う。それを全体で見合い、考えを共有する。教材動画を見せる→教科書のバーコードを読み取り、資料として使う。
- ・ワークシートの活用、保存し振り返り学習に使用。動画や画像の活用
- ・課題共有、資料・ワークシート送信、文章作成、作品作成、提出、交流評価
- ・学習したことを記録・保存し、振り返り等に活用。写真や動画を各自が撮影して教材として活用
- ・学習資料の収集・閲覧。図表の活用(作成・操作・提示)。意見の交流・集約。学習したものの蓄積。
- ・考えたことの共有、個々の進度にあわせた基礎基本の徹底。自己の振り返り。デジタル教材の活用。調べ学習。
- ・作文指導、小規模校同志でのリモート授業など
- ・子ども同士の意見交流。成果物の発表・交流。児童の考えや作品を全体で共有し、学び合いをしやすくなる。
- ・児童の考えを全体の場で共有。テスト等の自動採点・分析
- ・児童各自が目標を達成するために個人やグループで活動するための助けになる道具
- ・児童間での考え方の交流や教師の手本(実技等)を距離をとって行うことができる。
- ・児童間で考えを共有したり、協働的な活動を行ったりできる。
- ・自分の思いや考えを発信交流するツール、自分のこだわり等を調べるツール、学習したことのポートフォリオ
- ・実際に活用しています(ロイロノートの活用で画面をシェア)
- ・社会、理科、総合的な学習の時間での調べ学習。情報の収集、発表、タイピング
- ・授業支援として活用(全員の考えが電子黒板へ)
- ・体育自身の動き方を見直したり、友達同士でのアドバイスし合う活動に利用できそう。
- ・調べる、集める、撮る、保存する、考えを書く、まとめる
- ・調べ学習、ポートフォリオ、画面内の図形の操作、映像資料、プレゼン
- ・調べ学習、発表、デジタル教科書、ノートとしてアップルペンシルで書き込み保存
- ・調べ学習、発表ツール、視覚的にとらえやすい教材や単元
- ・導入の5問ミニテストや週末の確認テストなどで使用できそうです。

中学校

- ・アンケートや質問の答えをすぐに集計・提示する。パワーポイント等の資料を同時に編集できる(班行動)
- ・クラウド上で全体で共有しながら授業、クイズ形式の授業
- ・クラウド対応のコンテンツの教材の作成を通して授業を進める。
- ・デジタル教材の活用。ワード、エクセル、パワーポイントなどのソフトの利用。
- ・デジタル教材を使用した授業。調べ学習→実践の撮影→まとめで端末1台で行うことができる。
- ・パワーポイントやロイロノートを使用して調べ学習をYouTube動画の作成&発表。学習コンテンツの利用。
- ・意見の見える化。意見をまとめる。発信する。個別のドリル学習。調べ学習。
- ・机をはなしているため、板書が見えにくい、タブレットなどでそれをカバーする。
- ・思考過程の交流(プレゼンテーション)。共通の課題の提示。ドリルの活用。調べ学習。
- ・実験の記録(動画/写真など)、意見の集計、授業アンケート、画面共有による授業、プリント・動画プレゼンの共有
- ・生徒用端末にすべての教科のデジタル教科書が入っていたら毎時間使用できる。荷物も減らせる。
- ・単元毎のテストや受験対策、豆テスト等。電子黒板とつなげて授業を行えるといいと思います。
- ・調べ学習に活用(多数)。プリント配布、小テスト、アンケート、意見交流
- ・調べ学習。映像など詳しく見ることが出来る。調査活動、成果を発表する際のプレゼン
- ・調べ学習。考えや問題回答の集約。自分の考えを他者に伝える。
- ・動画による自主学習、調べ学習。ノートとして。情報収集及び回収など
- ・毎日の生活チェック、各教科でのその場面に応じた効果的な活用、他校との交流学習
- ・有効な手段となると思います。様々な場面で有効

高等学校

- ・ホームルームにおいて各自の端末を使用して幅広い学習や探究活動が行える。
- ・意見発表や集約。確認テストの採点や集計。提出物等で時間を取られなくなる。
- ・映像や資料の掲示。意見やデータの集約・分析。
- ・疑問点、つまづいている点など学びの中で生徒が持つ情報の共有化、可視化
- ・個々の理解力や進度に応じた教材・教具としての活用。個別最適化学習の推進
- ・作品・課題の共有。プリントの廃止。
- ・視覚的に注意をひきつける教材を使い授業する。生徒の考え(意見)をまとめて送ってもらい保存する。
- ・授業における動画を各端末に配信し、理解度を深める。グループワークの内容の見直し。
- ・情報検索。レポートまとめ。動画作成・視聴。パワーポイント作成及びプレゼンテーションに活用
- ・振り返りテストの実施。採点が自動でされ、解答用紙を印刷して返却。得点の推移が自分で確認できる。

- ・ 数学・理科などの図や動画の活用。映画を通した海外との交流。
- ・ 数学の授業で図形・グラフを動かす。考察、振り返り活動。活動を写真や動画で記録。
- ・ 生徒が自ら調べまとめる学習や生徒が共同でレポート等を作成したり考えを共有する学習
- ・ 生徒同士の協働学習やアクティブラーニング、オンライン授業に活用しています。
- ・ 他の生徒との情報共有、調べ学習、課題の発信、プロジェクターを用いた発表等

特別支援学校

- ・ 計算など個人の能力にあわせて一人一人が解答するなどの活用ができる
- ・ 視覚的にとらえやすくなる。記録にのこしやすい。
- ・ 障害のある子に合わせた型での教材・映像等の提示
- ・ 文具のように使う。ファイルの共同編集で意見を共有する。

2. 自宅に持ち帰らせる

小学校

- ・ タブレットを活用したり繰り返し学習が容易になり、家庭学習がより定着する（予習や復習）。
- ・ デジタルドリル等による宿題、双方向通信による授業
- ・ 家庭学習のチェック、内容の蓄積もできる。負担減になれば
- ・ 課題をリモートでも提出させたり返却できたりする。休日でも学校と連携をとった活動をする
- ・ 学校で授業がどうしても追いつかず、教育の機会が失われるのであれば持ち帰ってリモートで行う。
- ・ 学習課題をタブレットに入れ、その回収や点検をネット上で行っていく。
- ・ 共通課題・個別課題の取組。音声を使った外国語（英語）学習。調べ学習。ドリル学習。
- ・ 健康観察、課題共有、課題への取組（学習・作業）提出・交流評価
- ・ 自主学习（調べ学習等）に活用。臨時休業の時の学習支援・連絡
- ・ 自分の気になるをさらに調べる。学習コンテンツを利用したドリル学習。
- ・ 宿題のプリント代わりに(多数)。休校になった場合、リモートでの授業参加。
- ・ 宿題や調べ学習の為のツールとして活用する
- ・ 調べ学習、かんたんな学習アプリ。臨休時等のリモート学習
- ・ 本時の宿題を出したり、次時の活動に用いるものの準備ができそう。

中学校

- ・ eライブラリーに取り組み。学校HPにある課題に取り組み。オンデマンド学習、生活管理、デジタルノート
- ・ マイクロソフトTeamsでのリモート授業やYouTubeにアップした動画（授業）の視聴
- ・ リモート授業、家庭学習。ルールの設定が必要だと考えます。
- ・ ロイロノートによる連絡、課題、コミュニケーション
- ・ ワークなどの宿題を端末でおこない、提出も端末でおこなわせる。
- ・ 演習問題。ネットを使った調べ学習。
- ・ 家庭学習内容の充実。家庭との連絡。各家庭の通信環境次第
- ・ 課題を出す。調べ学習。Eライブラリ（ドリル）に取り組みさせる。個別のドリル学習。デジタル作品の制作。
- ・ 学校・学年・学級の連絡通信。オンライン授業。調べ学習など
- ・ 学校管理の場合、破損・紛失があった時に責任がとれないので持ち帰らせるのは難しい。
- ・ 休校期間や、長期休業中の学習ツールとして（ドリル学習など）
- ・ 子どもの実態にあったレベルで問題を解く。時間帯を気にせず、やり取りが出来る点
- ・ 自宅で授業を受ける（休校時）
- ・ 自宅には持って帰らせない。教室で充電。
- ・ 宿題、予習・復習、反転学習、照合学習での取材。
- ・ 宿題の配信・提出。家庭学習の管理（内容、時間など）
- ・ 通信や宿題の返信。宿題提供をクラウド上にアップする。
- ・ 動画を見て復習。宿題の提出。
- ・ 不登校生徒の学習充実
- ・ 保護者も含めアンケート、個別学習（データにもとづいた弱点克服）
- ・ 臨時休校中のリモート授業

高等学校

- ・ リモートでの授業。ただし、環境が整備されていない。
- ・ 課題、レポート等の作成、遠隔授業等
- ・ 課題に取り組み。プレゼン資料等の追加・修正が家庭でできる。
- ・ 課題の配信・回収、リモート授業
- ・ 学校の授業の継続した学習。オンライン授業
- ・ 学習の個別化（オンデマンド）に対応できる。自主的な学習の喚起
- ・ 学習時（授業や宿題をやる時）には必ず情報端末を持参して学習できるようにする。
- ・ 事務連絡等をGoogle class room上で行う。宿題・課題の取組
- ・ 自宅においても好きな時間に復習や他の学習が行える。
- ・ 自宅学習の補助、アダプティブラーニングに活用しています。
- ・ 授業の復習等（オンデマンドを利用して）
- ・ 生徒との連絡ツール。家庭学習用の教材の配布・回収。
- ・ 生徒との連絡や課題提出。生徒の健康チェックなど
- ・ 配信された教材。復習や宿題など。復習動画配信
- ・ 紛失・故障の恐れがあるため難しい。保障があればだが…
- ・ 保護者宛プリントの廃止。授業での補足や検定対策の質疑応答等
- ・ 理解を深めることや興味関心に応じた深い学びに向けた活用

特別支援学校

- ・ オンライン授業での使用。宿題の持ち帰り。家庭で学校の作業の続きを進める。

3.その他

小学校

- ・ PCを机の上に置くには机が小さすぎて効率が悪い
- ・ パソコンルームでは2人に1台程度の割当だったが全員が一斉に学習できた。
- ・ 視聴覚に訴える教材の活用。音楽・理科・社会等で
- ・ 体育での動画撮影
- ・ 町の商工、観光課とタイアップし、町の魅力探し
- ・ 入学時から卒業時に至るまでの児童の学習状況の備蓄

中学校

- ・ 保護者も交えて三者面談。学校評価の回答、回答集計
- ・ GIGAスクール始動以前の問題が多すぎ。
- ・ まだ端末が整備されておらず、教員も使っていないので具体的にどのようなことができるかわからない。
- ・ 委員会や行事の取り組み等
- ・ 授業での発表、行事などの際の写真（記録用）などに使える。
- ・ 生活リズムの記録。体温の記録。
- ・ 積極的な活用に必要なを感じない。
- ・ 部活動など動画とりしてパフォーマンスをあげる。

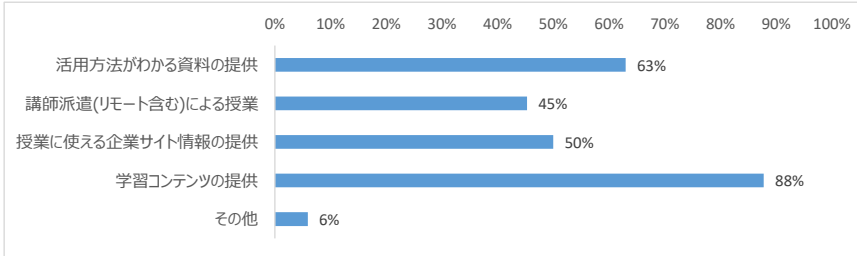
高等学校

- ・ 活用は困難。一部の教員のみが利用することになる。
- ・ 探究活動における調査・分析・発表・共有・ふりかえりに活用しています。
- ・ 保護者とのオンライン面談。企業や上級学校担当者とのオンライン面談。
- ・ 本校ではすでに1人1台iPodの無償貸与しています。（4年前より町の補助）

Q5 1人1台端末の活用について、企業団体が支援させていただいたらどのようなことを希望されますか？

(校種別)

	回答数	割合	小学校	中学校	高等学校	特別支援	その他
1 活用方法がわかる資料の提供	160	63%	56%	71%	56%	88%	0%
2 講師派遣(リモート含む)による授業	115	45%	51%	44%	41%	38%	100%
3 授業に使える企業サイト情報の提供	127	50%	59%	59%	26%	63%	0%
4 学習コンテンツの提供	223	88%	89%	86%	88%	100%	100%
5 その他	15	6%	7%	3%	10%	0%	0%
o 無回答	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%



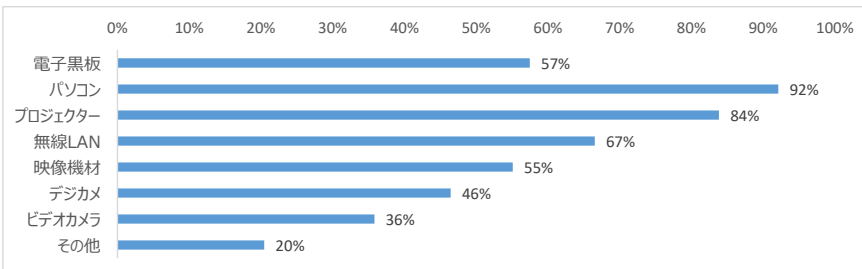
その他

- ・ 講師派遣の研修
- ・ 支援員の派遣
- ・ 周辺グッズの配布
- ・ 使用方法の説明。※講師派遣の形で。
- ・ そもそも高校（北海道のみ？）は1人1台となるのがまだまだ先。格安でのリース等のサポートがほしい。
- ・ 費用
- ・ リララシに関するまとめ

Q6 デジタル教科書やICT機器を活用した授業の促進も大きな関心となっています。ICT機器の活用についてお聞かせください。どのようなICT機器を活用していますか？

(校種別)

	回答数	割合	小学校	中学校	高等学校	特別支援	その他
1 電子黒板	146	57%	68%	59%	40%	88%	100%
2 パソコン	234	92%	89%	92%	96%	88%	100%
3 プロジェクター	213	84%	75%	80%	99%	88%	100%
4 無線LAN	169	67%	66%	70%	59%	88%	100%
5 映像機材	140	55%	54%	54%	51%	100%	100%
6 デジカメ	118	46%	56%	45%	32%	88%	100%
7 ビデオカメラ	91	36%	39%	43%	19%	38%	100%
8 その他	52	20%	21%	14%	25%	63%	0%
o 無回答	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%



その他

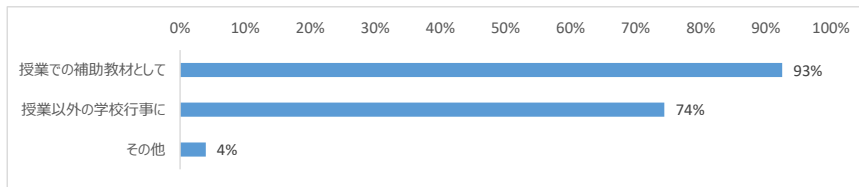
- ・ iPad
- ・ TV、インタラクティブボード
- ・ Webカメラ
- ・ iphone
- ・ 大型テレビが教室に一台設置されている。
- ・ 各教室にプロジェクター付電子ホワイトボードを設置
- ・ 教材提示装置
- ・ クロムブック
- ・ 携帯で撮った子どもの写真や動画
- ・ 実物投影機
- ・ 私物iPad
- ・ 書画カメラ
- ・ タブレット
- ・ デジタル教科書
- ・ 電子黒板
- ・ 動画配信など
- ・ 教師用PC (タブレット)

Q7 ICT機器を具体的にどのように活用していますか？

		回答数	割合
1	授業での補助教材として	235	93%
2	授業以外の学校行事に	189	74%
3	その他	10	4%
o	無回答	2	1%

(校種別)

小学校	中学校	高等学校	特別支援	その他
92%	97%	85%	100%	100%
73%	78%	69%	100%	0%
3%	5%	4%	0%	0%
0%	0%	3%	0%	0%



1. 授業での補助教材として

小学校

- ・ 複式学級、2学年同時にデジタル教科書の活用
- ・ お互いの考えを共有できるアプリの活用。ドリルの活用。
- ・ デジタル教科書、画像・動画の提示、さし絵の拡大、よく書けているノートの見本を写すなど
- ・ デジタルコンテンツの閲覧。動画撮影と共有。
- ・ デジタル教科書の提示、発表ノート、スクラッチ、mblock、ピクチャーキッズなど
- ・ デジタル教科書の提示。電子黒板へのかきこみ（子による）
- ・ デジタル教科書をパソコンで出し、算数の図形の書き方に使用している。
- ・ デジタル教材の投影やNHK for schoolの動画等。映像・画像などの資料を見せる際に用いる。
- ・ 学習課題の提示（実物投影機）外国語におけるパソコンの活用
- ・ 漢字の筆順や国語の発表動画など。作文指導、プレゼン資料作成
- ・ 教員が撮影してきたものを拡大したり、アップロードしたりして映し出す。
- ・ 教材の提示、資料集め、児童による文書・プレゼン作成と提示など
- ・ 教師の手元を見せる際のOHC、全体で情報を視覚化する際のテレビ
- ・ 子どもの調べ学習。活動の様子を撮影して振り返りに使う。資料やノート提示など。
- ・ 資料や教材の提示。プレゼンテーションをする時に利用。調べ学習。写真投影、デジタル教科書、NHK for school
- ・ 主要教科はデジタル教科書を活用。写真や映像も電子黒板に映し出し利用。
- ・ 書画カメラ・デジタル教科書を見ている。調べ学習、復習、発表資料の作成
- ・ 電子教科書、ホワイトボードとして、保存した画面を振り返りとして、実物投影機と組み合わせて手順の説明や絵本の読み聞かせ
- ・ 電子黒板でデジタルコンテンツを見ている。PCでタイピング練習
- ・ 動画・静止画の記録、資料の検索・収集等。keynote、Youtube動画の配信
- ・ 毎時間全クラスで教師間デジタル教科書をプロジェクター提示

中学校

- ・ iPadのMetaMojiやTeamsでプリント配布、添削やプレゼン、グループワーク
- ・ タブレットで教科書を大型テレビに写したり、ノートを写して変換するなど
- ・ デジタル教科書、スピーチ等の動画撮影とその振り返り、資料提示（YouTube等）
- ・ デジタル教科書を活用した授業展開。パワーポイントで作成した教材の提示。
- ・ パワーポイントで制作した教材をテレビに映すなど
- ・ プロジェクターの活用。デジタル教科書。プレゼンテーション、協働学習、アクティブラーニング
- ・ 映像教材の視聴。教員の資料提示など
- ・ 教科書やプリント教材をプロジェクターを通して黒板に映し出す。電子黒板にパワーポイントの資料を映し出す。
- ・ 研修会において、授業の様子を別室のモニターで見られるようにする。
- ・ 教科書等における注目箇所の提示共有、説明。
- ・ 資料の提示、生徒の発表。資料とデータ他TVに写す。
- ・ 資料の配布、提示、実技の様子を撮影。パワーポイント等の資料作成。
- ・ 資料提示（パワーポイント等）説明の為の動画。
- ・ 普通教室に1台の電子黒板があるので、パソコンとリンクさせて使ってます。
- ・ 問題や回答を提示、動画、写真、プレゼンなど

高等学校

- ・ PCとプロジェクターを活用してパワーポイントを使用しています。
- ・ PowerPointなどで重要事項を提示して黒板への板書を減らした。
- ・ スライドなどプロジェクターでの投影、DVDの上映。
- ・ デジタル教科書等の提示、ネット利用による調べ学習等
- ・ パワーポイントで教材を提示、イラストも活用

- ・パワーポイントを使った授業や生徒の感想文等をスキャンして、前時の振り返りを行う。
- ・プレゼンソフト、動画放映、楽譜出力、音声出力
- ・映像・画像を見せる。生徒の書いたものなどを映すなど
- ・映像など視覚的な補助。映像やスライドを提示する
- ・映像や資料の提示。データの分析など
- ・電子黒板などのICT機器を活用することで生徒の理解度が向上した。
- ・板書を減らし、授業進度アップ立体的な図形を視覚的に見てもらう。
- ・板書代わりに授業内容をプロジェクタで投影。パソコンの画像データをテレビモニターに映すなど

特別支援学校・その他

- ・映像機材を流す。授業の様子を記録する。
- ・具体的な映像で説明したり、職場見学ができない時は、事前に職場を撮影したものを上映するなどした。
- ・視覚障害のある子に拡大表示をするなど
- ・教材の提示、発表資料の作成、交流

2.授業以外の学校行事に

小学校

- ・PTA、学校行事での資料提示など。オンラインによる児童会演説。
- ・Zoomでの視聴（卒業式等出席できない学年で）
- ・オンライン全校集会、オンライン懇談会。お別れ集会のプレゼン
- ・ダンスの見方や、練習の様子や動きを子どもと確かめる事に使った。
- ・パワーポイントで作成したものをプロジェクターで提示（集会等で）
- ・パワーポイントの提示や映像を見せる。リモート、YouTube Live配信
- ・映像を編集し、集会等に利用。各行事等の記録
- ・学習発表会でプロジェクター利用。講話の際の提示
- ・活動の様子をリモートで中継。全体の場での資料提示など。
- ・集会などでのスライド活用。全校集会などでプロジェクターを用いる。
- ・集会等でスクリーン映像を活用（オンラインによる他校との交流）
- ・朝会、学年別に発表して運動会の演技を各教室にライブで届ける（引きと、寄りの2画面構成）
- ・入学式、卒業式等での映像。朝会や集会の映像など
- ・保護者へのプレゼン。地域や保護者に映像を見せる。HPを使った家族への連絡等
- ・毎週月曜日の全校朝会をTeamsで実施

中学校

- ・Zoom、YouTubeによるオンライン講習会、クラブ・委員会
- ・Zoomを用いた講話や、Live配信など。YoutubeLive配信
- ・コロナ対策（集会の送信）・生徒会行事を配信など
- ・パワーポイントでの文化祭発表、運動会のリアルタイム配信（保護者向け）
- ・ビデオカメラで動画を撮影したり、デジカメで写真を撮ったりする。
- ・リモート集会、発表の学級配信。リモートによる全体集会等。
- ・記録用写真や活動撮影、調べ学習、資料作成
- ・計画、報告、情報共有のプレゼンテーション
- ・行事のYouTube配信
- ・行事のリモート。諸行事活動のCMづくり
- ・集会、講演会、文化祭等で各学級で映像を見れるようにしている。
- ・集会でのパワーポイントの使用。生徒会活動、文化発表会等
- ・生徒の作品を見る。式、行事をリモートで行う。全校集会など集まらない時の代用策として
- ・生徒会行事等でのスライドショーや動画制作発表
- ・説明に活用する映像。動画による全校集会
- ・体育館等でのプレゼンテーション
- ・体育大会の様子をユーチューブにアップした。
- ・動画を撮影して部活の発表の場を設ける
- ・部活動で動画を使ってフォームチェックなどしたりしている
- ・文化祭などでのビデオ制作と上映など

高等学校

- ・Zoomでの保護者へオンライン配信
- ・Zoomを活用したオンラインでの交流会など
- ・パソコンの画面を映し出して実施
- ・映像投影。学校PR動画など
- ・学校祭のオープニングビデオや、カラオケのときの歌詞表示など
- ・学校説明会で中学3年生に学校の様子を説明（パワーポイント）
- ・寒い時期の学年集会や、始業式・卒業式等の全校集会。
- ・校内LANを利用して体育館（3学年）での講話等を1・2学年はHRで視聴させた。
- ・今年度はコロナ禍のため、全校生徒を体育館に入れることが出来なかったため、ICT機器を活用して各ホームルームへ配信するなどの工夫を行った。
- ・事前に各HR単位で動画を撮影し、各教室にてクラス紹介などの鑑賞会
- ・集会等をプロジェクターに映すなど
- ・卒業式などへの先輩へのメッセージ、体育祭などでのダンスの練習動画の配信
- ・発表会でのパワーポイント
文化祭での映像作品制作。体験旅行の事前・事後学習。

特別支援学校

- ・スケジュール・予定の確認。記録。
- ・全体で集まって行うことがむずかしいものは、事前に各グループで映像をとり、発表しあうなどで対応した。
- ・大きなスクリーンを使った掲示等

3.その他

小学校

- ・ 密を避け、半数は別教室で、映像で見学する

中学校

- ・ 何かを調べるときに使っています。
- ・ 課題をiPadに入れてとり組ませる。
- ・ 自宅でのドリル学習など

高等学校

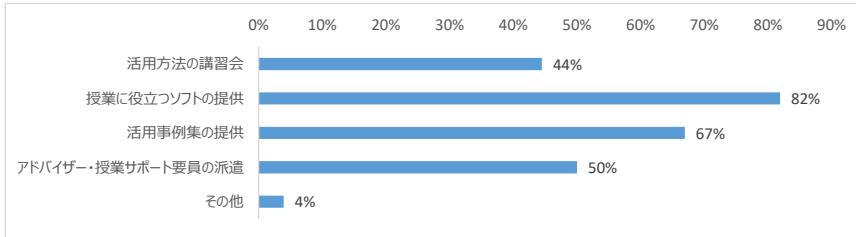
- ・ ほとんど進んでいないのが現状です。
- ・ プロジェクター付電子ホワイトボードにiPadのミラーリングで活用しています。

Q8 企業団体がICT機器や教材の活用について支援させていただくとしたらどのようなことを希望されますか？

	回答数	割合
1 活用方法の講習会	113	44%
2 授業に役立つソフトの提供	208	82%
3 活用事例集の提供	170	67%
4 アドバイザー・授業サポート要員の派遣	127	50%
5 その他	10	4%
o 無回答	2	1%

(校種別)

小学校	中学校	高等学校	特別支援	その他
39%	48%	49%	25%	0%
87%	78%	84%	88%	0%
61%	65%	74%	88%	100%
59%	50%	40%	38%	100%
7%	2%	4%	0%	0%
0%	0%	3%	0%	0%



その他

- ・
- ・ 教育系ソフトの充実をのぞみます。
- ・ 教材の提供
- ・ 周辺グッズの配布
- ・ 特にありません
- ・ ロイロノートに続くコミュニケーションツールとしてのソフト開発

Q9 自由記述

小学校

次々と導入される状況に現場は追いついていない。
iPadを使っている学校ですが、とてもよいです（使いやすい）
様々な活用方法が考えられるがICTの普及により子どもたちへの影響がどう出るのが気になるところです。
1人1台端末が間もなく配布されるが、教員側の活用能力がまだ不十分である。他の仕事が減るわけではないので、活用するための時間確保が必要だ。
1人1台端末の中、各家庭のネットワーク環境も十分に整っていないのが現状。また、持ち帰りなどのケースも各校の対応であったり、保険の問題もあり、“外”側の問題の方が課題あり。
ICTを使いこなすことができれば、子どもたちの学びの質を高められるものもあると思います。新しい機器がどんどん増えることにももちろん不安はありますが、子どもとともに学んでいきたいです。
ICT化されていくことにワクワクしていますが、実際に授業で活用していくときは不安です。定期的にサポートの方が来て、先生方と教材研究をしたり、授業をサポートしたりしてくださると安心します。
音声認識を活かして、文字がテキスト化される機能が付いているとすぐに発表につなげられる。地図や絵地図の画像の設定ポイントをクリックすれば、写真や説明、動画などがすぐ、見られるようになるソフト
板橋区は月に4回しかサポートスタッフが来ません。これでは毎日の授業、どの学級もという具合にICT機器を活用していく状況・環境にはなりません。ぜひ、サポートスタッフを派遣していただくと嬉しいです。
端末の普及が始まりましたが、実際に使用させる中での破損や紛失を心配しています。また、オンラインで活用させる上ではフィルタリングや、メディアリテラシー教育など安全に使わせるための手立ても十分にとりたいと思っています。
1人1台端末を持ち帰らせての授業を2日程行ったが、教師と児童の距離はどうしようもなく、児童が何を調べているか、どんなことをやっているのか把握できず、主導権を児童がにぎっていると感じた。学びの姿勢と、情報モラルの育成が必要。

中学校

年間を通して定期的な支援員の派遣。
端末の効果的な活用方法や実践例が知りたいです。
管理（デバイス・アップデート・アプリ・PWなど）かなり不安

活用方法の講習会や活用事例の提供をしていただけますと大変助かります。
常駐のICT支援員が各学校1名必要です。ハードが整備されても使いこなせません。
フリーで利用できるソフトや、コンテンツ、ブラウザ対応のソフトがあると助かります。
全先生方が前向きにGIGAスクール構想と向き合い研究してほしい。世の中の流れであるからには着いていくしかない。
ICT支援員は派遣される予定なので、要員派遣のアドバイスはしてもらいたいが、学校体制としての要望ではない（個人意見）
各家庭に持ち帰った場合、Wifi設備が無い家庭では仕様が難しい面もある。また、利用に関するルールをどのように設定するか課題が多い。
望ましい教育効果があり、子どもの脳へのダメージ等のデメリットがないのであれば活用を促進したいが、アナログで育つべき能力が育成されないという心配は大きい。
長期の休校は二度とやりたくないです。家庭学習が多くなると家庭環境によって教育格差が広がるように思います。子どもたちの未来に重大な影響を与える懸念があります。
セキュリティ面、ネットワークの強化など課題が山積みですが、やりながら解決していくしかありませんが、専門家のノウハウがあれば、解決することも多いと感じています。
本町は、まだ実機がない上に、プリントアウトができない仕様のように。電子化の良さも取り入れながら、デジタル、アナログ双方をうまく使っていけるよう、今後試行していきます。
学校は学問を習得するだけの場ではない。友人同士、先生と生徒が関わりあいながら成長する場でもある。その意味でオンラインやICTに頼ることがどこかでつげが回ってくるようで怖い。
管理職はタブレットをもってないので使い方の詳細を知らない。先生方にも得意な先生とそうではない先生がいる。得意な先生に大きな負担がかかり、そうでない先生は気持ちの負担が大きくなる。
ICT機器活用の環境（LAN、Wifi）がこれまで不十分であったが、現在整備中である。予算がとれず、これまで整わなかった。教員の活用能力は十分であっても、環境整備には引き続き、お金と時間がかかるだろうと考える。
GIGAスクール構想の中で、一人一台端末が支給されましたが、予算の面でそうとう厳しかったようでタブレットのスペックがとても低いものになってしまっています。デジタル教科書をインストールしたり、動画や資料をローカルに保存することも制限されてしまっています。また、USBやBluetooth（YouTubeなどの視聴）の使用も制限され、使用するのが難しい現状がありますので情報まで！

高等学校

教育現場もそうであるが、様々な分野においてコロナ禍をいかにして乗り越えるか模索中です。多くの知恵を出し合い、新しい対処の方法を探究していきましょう。
今でも多忙なのにICT機器の保守など考えただけでもぞっとします。本校のように学力の低い、生活指導が大変な学校はなおさらだと思います。全て現場の学校に丸投げで教育の平等や質の保持ができるのでしょうか。
北海道の公立高校はICT化が遅れ気味です。機材・機械が足りなく、一校当たりのインターネットの割り当ても「細過ぎ」です。こんな北海道でもできるICTへの道が知りたいです。
教育のICT化が叫ばれて久しいですが、生徒が独自に活用するには程遠い印象です。学校間格差も大きいです。端末の速やかな普及と、今いる教員の負担をこれ以上増やすことのないよう、専門の指導員の常駐を希望します。